

# 精密機器の製造現場を支える高性能対物レンズ

主力製品は工業系の高倍率の対物レンズ。マイクロスコープなどに使われて、光学機器や電気製品の製造現場で製品の表面精度や寸法を計測します。このため細部を正確に拡大するための高い技術力が要求されます。近年はお客さまの用途に合わせたカスタム製品のほか、高精度で価格を抑えた汎用の定番製品も揃え、技術と価格の両立にも積極的に取り組んでいます。

三恵舎の強みはレンズの製造から組み立てまで、全工程を1社で行えることです。このため試作でも量産でも、スピード感を持った製品化が可能です。技術力が評価され、最近では要求の厳しい試作を受ける事が増えてきました。こうしたお客さまの期待に応えるためにも、「積み重ねてきた技術を速やかに若い技術者へと継承し、伝統を守ると同時に常に新しい技術を磨き続けることが、信頼を受け続けるただひとつの方法だ」と大芝社長は語ります。



複数枚を一度に研磨する機械。レンズをセット



どんなレンズも磨いてしまうという達人・小野さん

ここがすごい!!

## 最後は職人の経験がものを言う

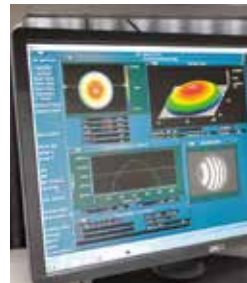
レンズの研磨は機械で行いますが、スイッチを入れたらレンズが完成するわけではありません。磨いたレンズをいかにして設計上の曲率(レンズの曲面の形状)に一致させるかが重要ですが、それをコントロールするのが職人の経験。研磨するときの力のかかり具合を判断しながら、機械を使いこなしていきます。レンズの精度はこうした職人技で守られています。これからはこの技をいかにして若い世代に伝えていくかも課題だそうです。



職人技が求められるレンズの芯取り作業



レンズを一個一個研磨する機械



高価なアメリカ精密測定機。品質管理に投資は惜しまない

### 株式会社三恵舎

www.sankeisha-ltd.com

代表者 大芝 三郎  
所在地 世田谷区楼新町2-22-5  
設立 昭和23年(1948年)  
主な事業 レンズ的设计・製造・組立  
連絡先 ☎03-3429-4331



大芝三郎代表取締役

## VOICE 思ったことは深く考えず何でもやってみよう

家の故障した家電を分解したのが私のものづくりの原点です。分解にも順番があって、それを自分で発見し最後まで分解できると大きな喜びでした。好奇心や興味のままに何でもやってみる。そのうちにこうしたら、ああしたらとアイデアが浮かんでくる。それこそがものづくりです。